

米の需給に関するその他参考資料

令和7年10月
農林水産省

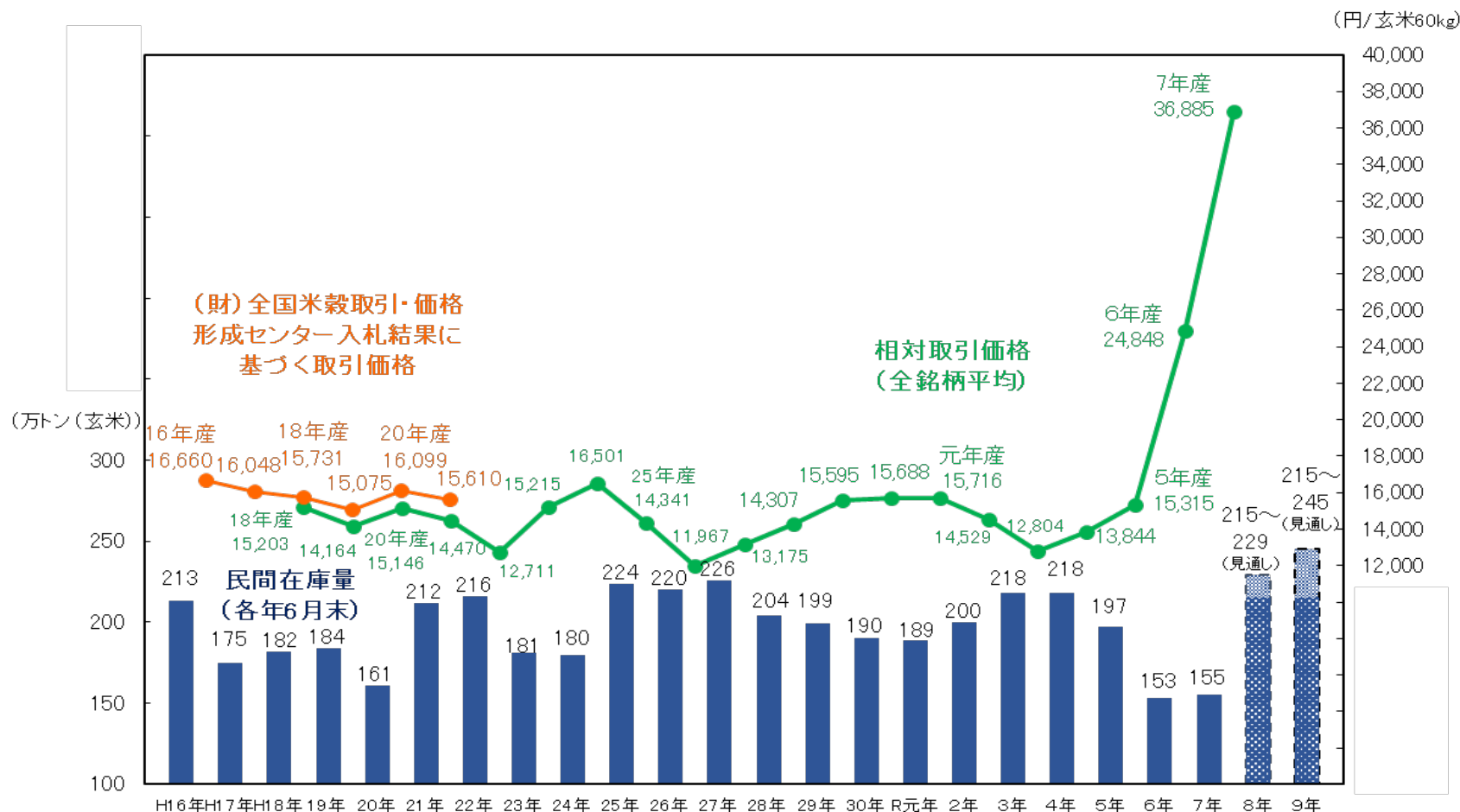
目 次

○ 相対取引価格と民間在庫量の推移	1
○ 令和7年産米の集荷業者の集荷・販売状況（速報）	2
○ 集荷業者の在庫量の状況（速報）	3
○ 卸売業者の在庫量の状況（速報）	4
○ 出荷（集荷業者）＋販売（卸売業者）段階の民間在庫量の月別の推移（令和7年9月末現在）	5
○ 相対取引価格の推移	6
○ 長期的な主食用米の価格の動向	7
○ スーパーでの販売数量・価格の推移	8
○ 令和7年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量	9
○ 水田における作付状況（令和7年9月15日時点）	10
○ 政府備蓄米の在庫状況について	11
○ 主食用米の需要量の推移	12

相対取引価格と民間在庫量の推移

- 令和8年6月末の民間在庫量は、令和7/8年需給見通しで示している「215～229万トン」と見込んでおり、仮に229万トンに達した場合、直近10年程度で最も在庫水準が高かった平成27年の226万トンに匹敵する水準。
- 令和9年6月末の民間在庫量は、令和8/9年需給見通しで示している「215～245万トン」と見込んでおり、仮に245万トンに達した場合、6月末の民間在庫量調査を開始した平成16年以降で最大の水準。

〔(参考) 令和7年6月末の民間在庫量：155万トン、相対取引価格（令和6年産）：24,848円/60kg
平成27年6月末の民間在庫量：226万トン、相対取引価格（平成26年産）：11,967円/60kg〕

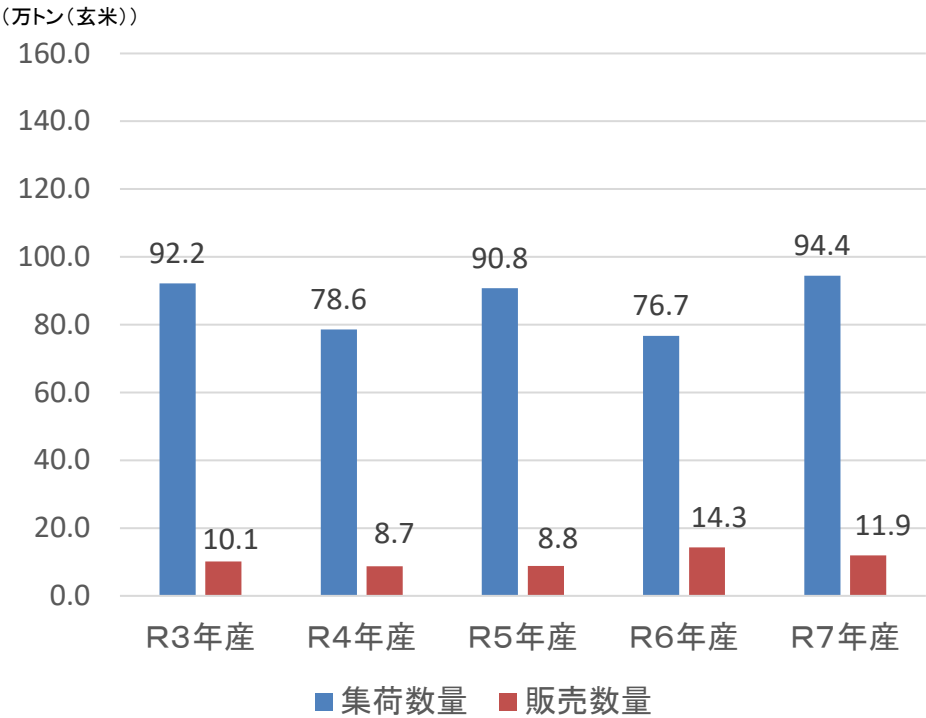


注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（令和6年産及び7年産は出回りから7年9月までの速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

令和7年産米の集荷業者の集荷・販売状況（速報）

- 令和7年産米の集荷数量は、令和7年9月末現在で対前年差+17.7万玄米トンの94.4万玄米トン。
- 一方、集荷業者から卸売業者等への販売数量は、9月末現在で対前年差▲2.4万玄米トンの11.9万玄米トン。

【集荷業者の集荷・販売数量の推移(9月末時点)】



資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注: 集荷数量及び販売数量は、年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の集荷業者を対象とした当該年産の出回りから9月までの累計数量。

【集荷業者の集荷数量の前年差】

(単位: 万トン(玄米))

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
5年産	90.8	174.9	209.3	236.3	244.0	248.6	251.5	253.6	255.2	256.6	257.3	257.4
6年産	76.7	158.9	191.1	214.2	219.9	223.2	224.8	240.4	241.7	242.8	243.2	243.2
7年産	94.4											
前年差	+17.7											

	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
うち備蓄米(6年産)	0.3	13.9	14.0	14.0	14.0	14.0

【集荷業者の販売数量の前年差】

(単位: 万トン(玄米))

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
5年産	8.8	23.3	38.2	56.2	71.2	91.4	113.7	138.1	162.8	187.0	208.2	226.6
6年産	14.3	29.8	45.0	62.0	77.8	95.7	115.0	139.1	159.4	176.5	194.0	207.4
7年産	11.9											
前年差	▲2.4											

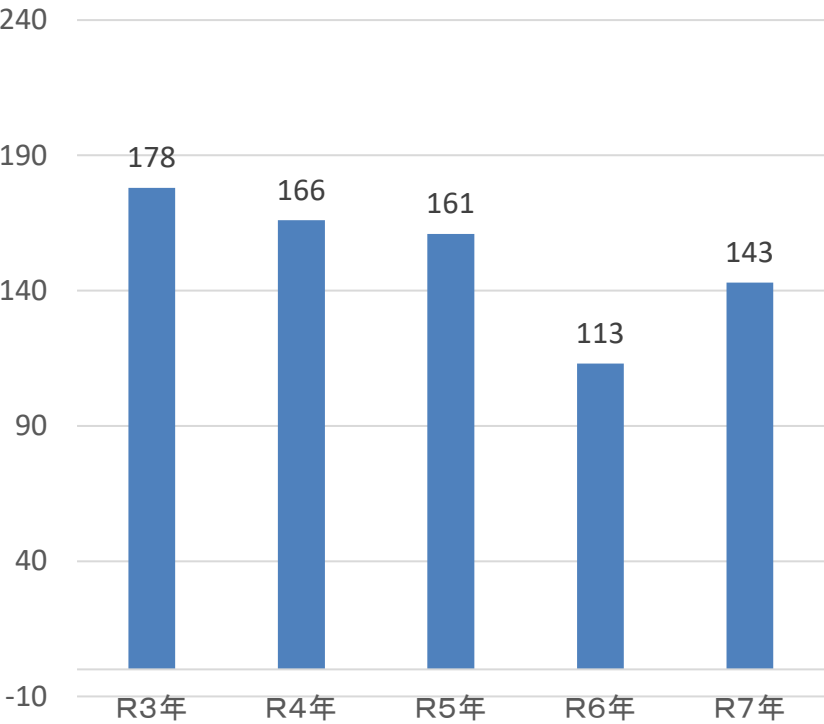
	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
うち備蓄米(6年産)	0.3	3.8	8.9	12.4	13.9	14.0

集荷業者の在庫量の状況（速報）

○ 令和7年9月末の集荷業者の在庫量は、143万玄米トンで前年同月に比べ30万玄米トン増加（売り渡した備蓄米の在庫は0万玄米トン）。

【集荷業者の9月末民間在庫量の推移】

(万トン(玄米))



【集荷業者の民間在庫量の前年差】

(単位:万トン(玄米))

	7月末	8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末
5/6年	95	78	161	235	249	246	228	202	171	139	112	84
6/7年	58	44	113	187	200	196	179	159	135	125	109	84
7/8年	59	50	143									
前年差	+2	+6	+30									

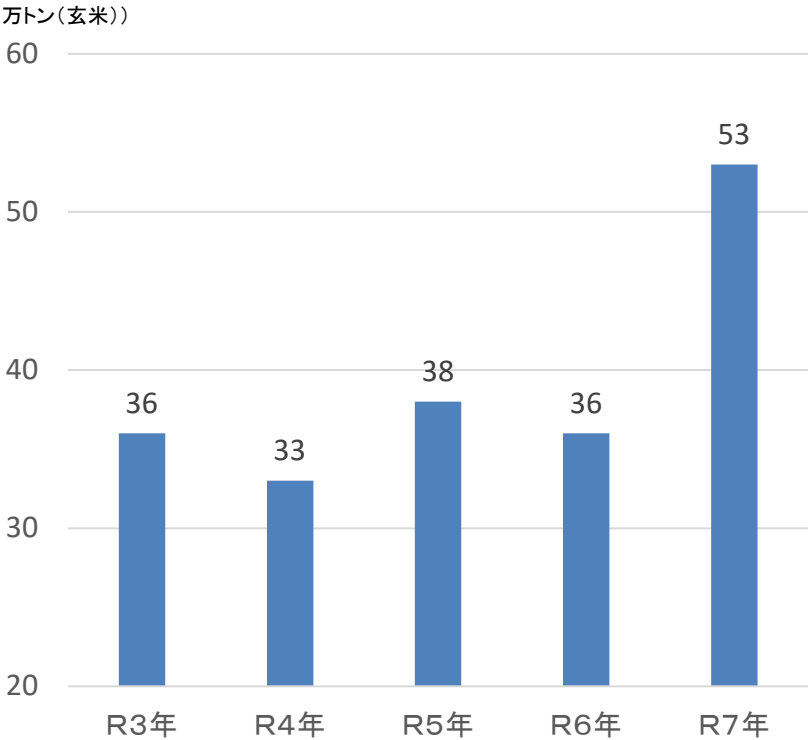
	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	9月末
うち 備蓄米	0.0	14.5	16.4	7.8	2.5	0.1	0.0

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1:水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の在庫量(玄米換算)の値である。
注2:年間の玄米仕入量が500トン以上の出荷業者を対象。
注3:令和7年9月末には、売り渡した政府備蓄米の数量を含む。

卸売業者の在庫量の状況（速報）

○ 令和7年9月末の卸売業者の在庫量は、53万玄米トンで前年同月に比べ17万玄米トン増加（うち売り渡した備蓄米の在庫は1万玄米トン）。

【卸売業者の9月末民間在庫量の推移】



資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1:水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の在庫量(玄米換算)の値である。
注2:年間の玄米仕入量が4,000トン以上の卸売業者を対象。
注3:令和7年9月末には、売り渡した政府備蓄米の数量1万玄米トンを含む。

【卸売業者の民間在庫量の前年差】

(単位:万トン(玄米))

	7月末	8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末
5/6年	27	26	38	54	54	52	46	42	43	41	34	31
6/7年	25	21	36	58	59	56	50	46	45	43	40	37
7/8年	32	33	53									
前年差	+8	+12	+17									

	R7年 3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	9月末
うち 備蓄米	0.2	2.0	3.3	4.1	2.7	1.7	1.0

※ 期間については、7/8年であれば、令和7年7月～8年6月である。

出荷（集荷業者）＋販売（卸売業者）段階の民間在庫量の月別の推移（令和7年9月末現在）

○ 令和7年9月末現在の全国の民間在庫量は、出荷段階（集荷業者）・販売段階（卸売業者）の計で前年差+47万玄米トンの196万玄米トンとなっており、出荷段階は前年差+30万玄米トンの143万玄米トン、販売段階は前年差+17万玄米トンの53万玄米トンとなっている。

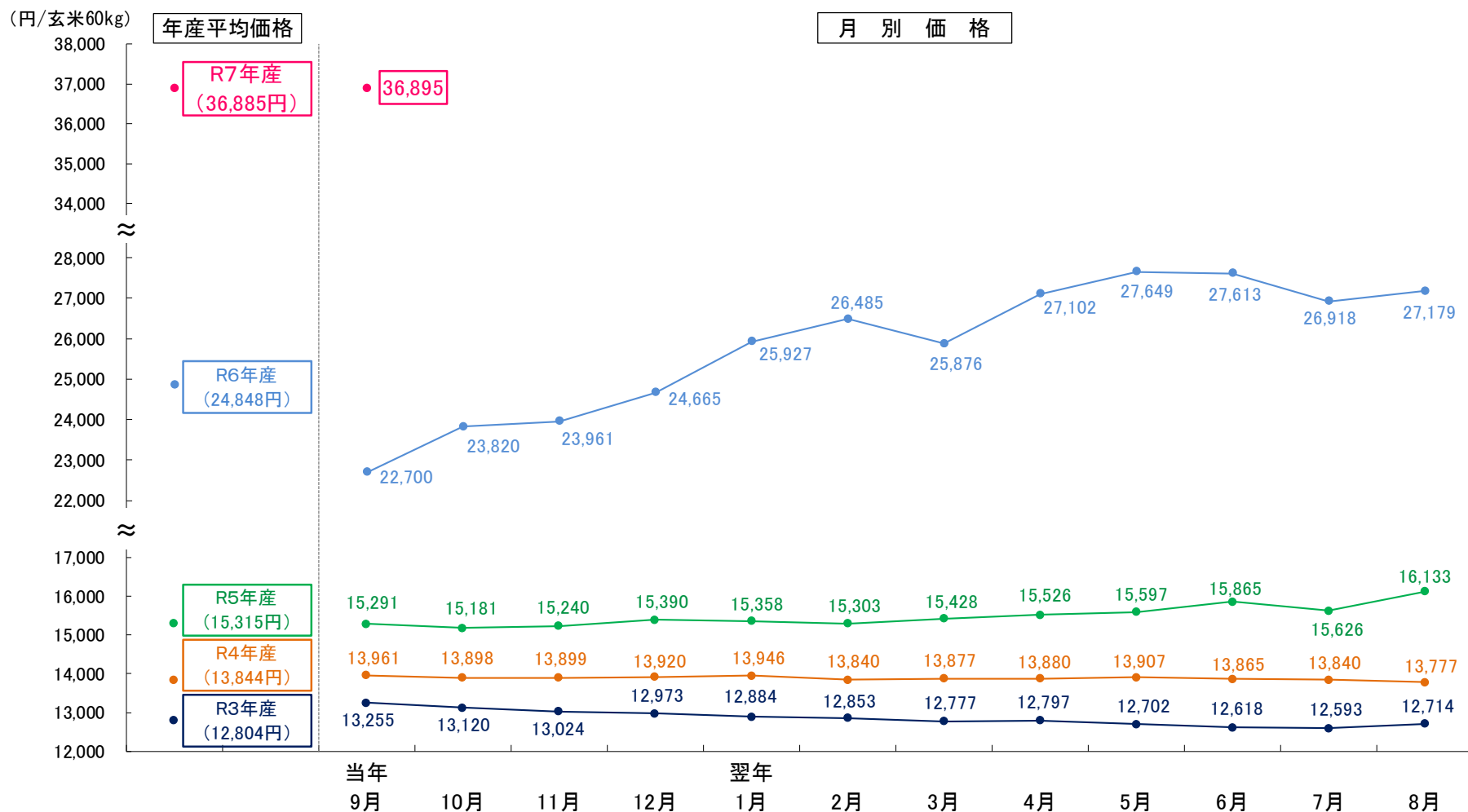
【民間在庫量の推移(出荷＋販売段階）（速報）】

毎月調査ベース													(単位: 万トン(玄米))	基本指針 ベース
	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月		6月
22/23年	118	102	212	351	372	363	339	304	238	200	156	118		181
対前年差	+5	+9	+48	+1	▲8	▲8	▲8	▲15	▲29	▲29	▲34	▲36		▲35
23/24年	83	55	134	298	327	320	291	259	224	185	147	113		180
対前年差	▲36	▲47	▲78	▲53	▲46	▲43	▲48	▲46	▲14	▲14	▲9	▲5		▲1
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157		224
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44		+44
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190		220
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33		▲4
26/27年	119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168		226
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21		+6
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147		204
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21		▲22
28/29年	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141		199
対前年差	▲16	▲19	▲7	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲7	▲7		▲4
29/30年	108	88	155	283	315	311	288	263	234	201	167	134		190
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲30	▲22	▲18	▲18	▲18	▲13	▲11	▲10	▲6		▲9
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131		189
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3		▲2
元/2年	99	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154		200
対前年差	▲3	▲9	+10	+6	+10	+17	+13	+7	+6	+11	+16	+23		+11
2/3年	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173		218
対前年差	+20	+21	+29	+30	+29	+24	+26	+27	+31	+27	+21	+19		+19
3/4年	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172		218
対前年差	+19	+17	+24	+6	+6	+7	+5	+6	+6	+7	+5	▲1		▲1
4/5年	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153		197
対前年差	+4	+4	▲15	▲18	▲21	▲21	▲20	▲19	▲20	▲18	▲19	▲18		▲21
5/6年	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115		153
対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲31	▲32	▲36	▲37	▲39	▲40	▲38		▲44
6/7年	82	65	149	244	259	253	229	205	180 (0)	168 (16)	148 (20)	121 (12)		155 (12)
対前年差	▲40	▲39	▲51	▲45	▲44	▲45	▲45	▲39	▲34	▲12	+3	+6		+3
出荷段階	58	44	113	187	200	196	179	159	135 (0)	125 (14)	109 (16)	84 (8)		
対前年差	▲38	▲34	▲49	▲49	▲49	▲49	▲49	▲43	▲36	▲14	▲3	±0		
販売段階	25	21	36	58	59	56	50	46	45 (0)	43 (2)	40 (3)	37 (4)		
対前年差	▲3	▲5	▲2	+4	+5	+4	+4	+4	+2	+2	+6	+6		
7/8年	91 (5)	83 (2)	196 (1)											
対前年差	+9	+18	+47											
出荷段階	59 (3)	50 (0)	143 (0)											
対前年差	+2	+6	+30											
販売段階	32 (3)	33 (2)	53 (1)											
対前年差	+8	+12	+17											

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
3 販売段階は、米穀の販売の事業者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
4 期間については、7/8年であれば、令和7年7月～8年6月である。
5 令和7年3月以降の（ ）書きは、売り渡した政府備蓄米の在庫数量（内数）である。

相対取引価格の推移(令和3年産～令和7年産)

- 令和7年産米の令和7年9月の相対取引価格は、概算金が昨年より3割から7割程度高い価格で設定されていることなどから、全銘柄平均で36,895円/玄米60kgとなり、対前年同月+14,195円(+63%)、対前月+9,716円(+36%)となったところ。また、取引数量は、16.0万トン(対前年同月比▲36%)となった。
- 年産平均価格36,885円/玄米60kgは、出荷業者と卸売業者等との間の取引価格としては、比較可能な平成2年以降で過去最高の価格である。



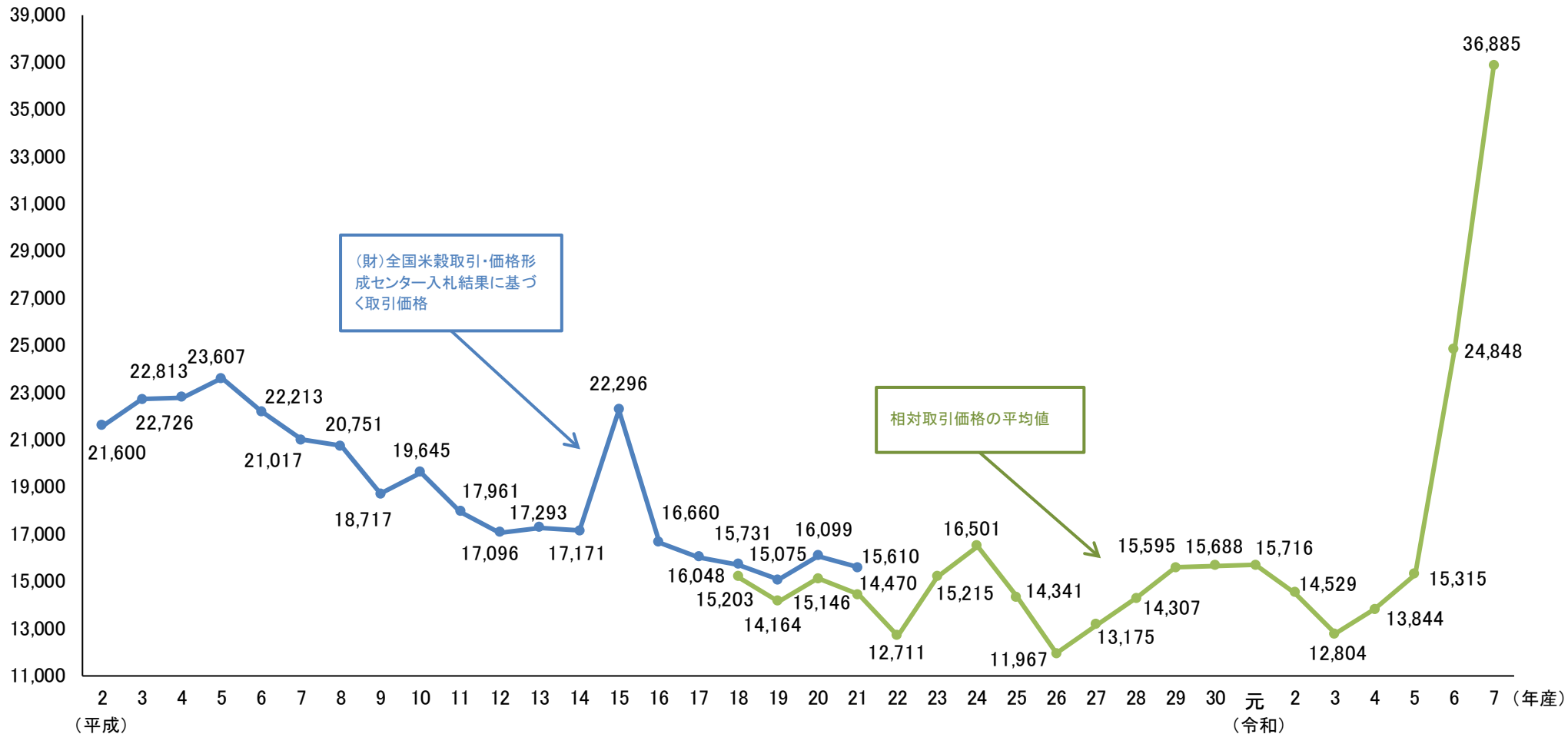
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。

注2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（6年産及び7年産は出回りから令和7年9月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。

長期的な主食用米の価格の動向

(単位: 円/60kg)



資料：（財）全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「相対取引価格」

注1：価格には、包装代、運賃、消費税相当額等を含む。

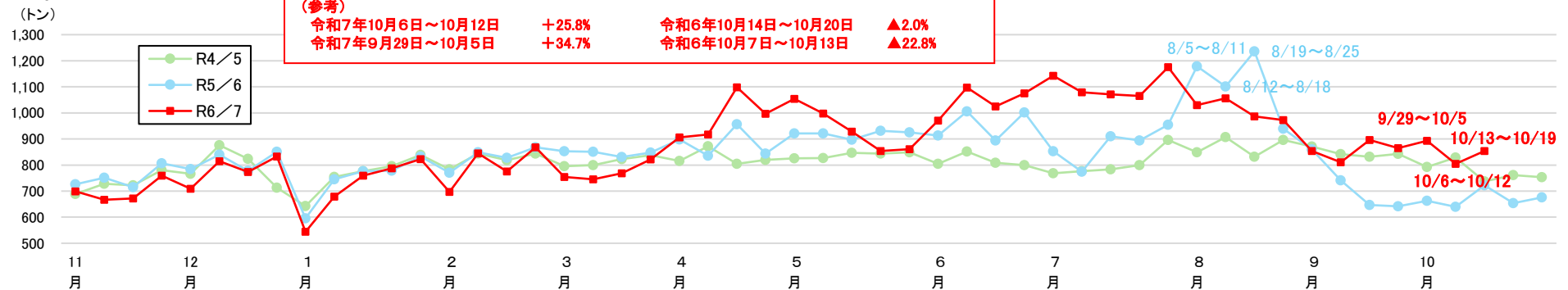
注2：年産別平均価格（令和6年産及び令和7年産は、出回りから令和7年9月までの速報値）。

- ※・コメ価格センター取引は、自主流通米の指標価格の形成を図るために実施されていたが、平成16年の食糧法改正により計画流通制度が廃止され、義務上場がなくなったこと等を背景に取引が低調となり、平成21年産をもって取引を中止。
- ・コメ価格センター取引が低調となったことを受けて、コメ価格センター取引価格の指標性を確認する観点から、相対取引価格について、農林水産省が18年産米から年間取扱数量5,000トン以上の全国出荷団体等と卸売業者の取引価格を調査、公表。その後も米の価格動向を把握するため引き続き実施。

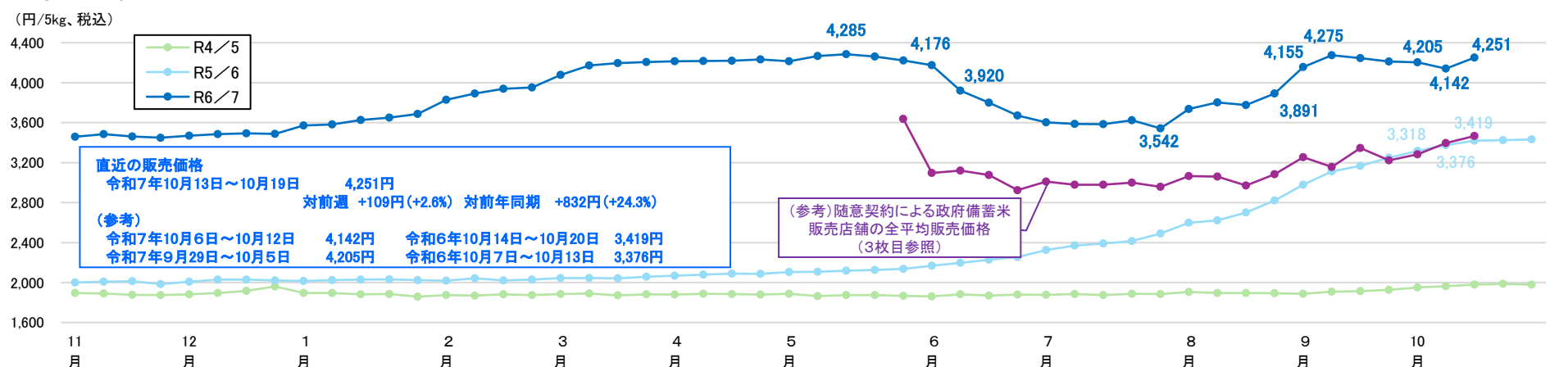
スーパーでの販売数量・価格の推移（POSデータに基づき作成、全国・週次）

- 令和7年10月13日の週の平均価格は、前週の4,142円/5 Kgから109円上昇し、4,251円/5 Kg。
(対前年同期+24.3%、前週比+2.6%。5週ぶりの上昇。)
- 平均価格については、令和7年6月以降、随意契約による政府備蓄米の流通により低下。8月以降は新米の出回りや随契備蓄米の販売がピーク時に比べ減少したことを背景に上昇した後、横ばいで推移。
- 販売数量については、令和7年6月、7月は前年を上回る水準で推移し、8月以降はピーク時に比べ低い水準が継続。

(1) 販売数量の推移



(2) 販売価格の推移



資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータ及び随意契約による政府備蓄米販売先事業者からの報告資料に基づいて農林水産省が作成

注1：(株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,000店舗のスーパーから購入したデータに基づくものである。

注2：週次データを月ベースに当てはめているため、実際の月とは若干異なる場合がある。

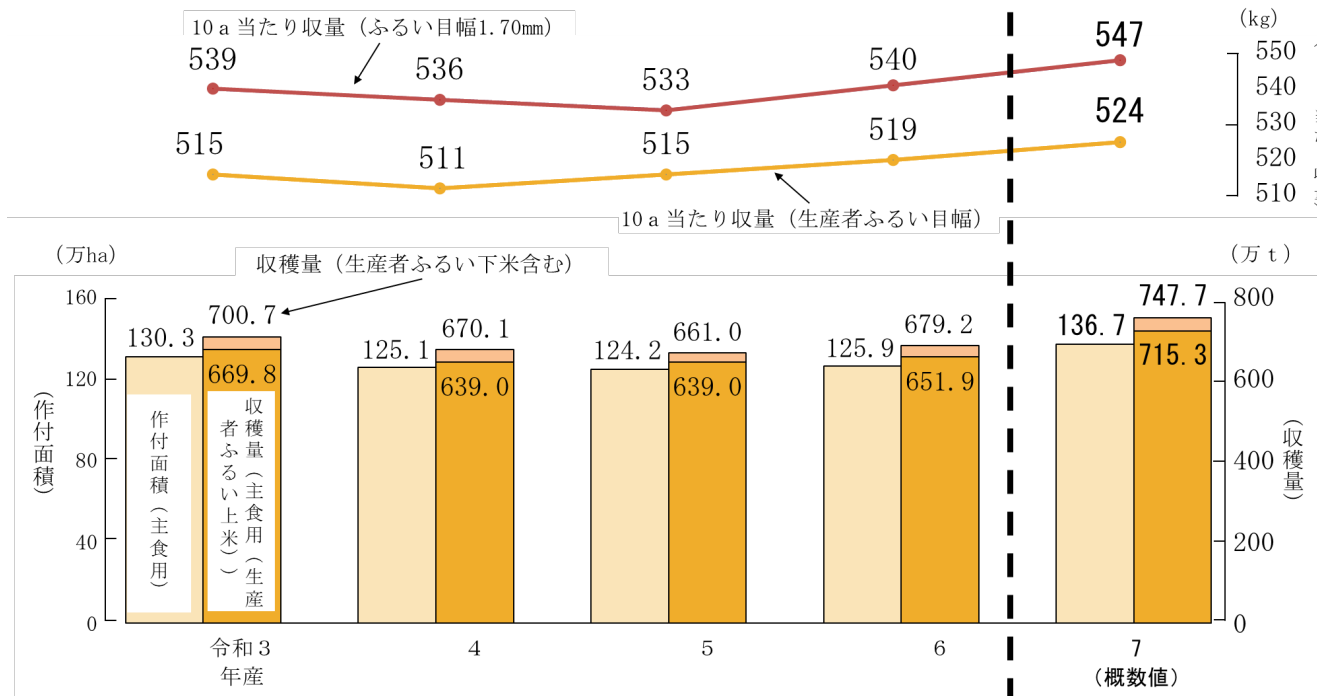
注3：『ブレンド米等』には、ブレンド米のほか、PB商品等も含まれる。

注4：ラウンドの関係で対前週比等の数値は一致しないことがある。

令和7年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量

- 令和7年産の水稻の9月25日現在の生産者が使用しているふるい目幅1.85mm、1.90mm等ベースの予想収穫量（主食用）は715.3万トで、前年産に比べ63.4万玄米トン増加と見込まれる。これは、
 - ① 作付面積（主食用）が、新規需要米や備蓄米等からの転換等があったため、136.7万haで、前年産に比べ10.8万ha増加と見込まれることに加え、
 - ② 全国の10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、一部地域で5月上旬から6月中旬にかけての気温や日照時間が前年を下回る地域があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれたため、524kgで、前年産に比べ5kg増加と見込まれるためである。
- 令和7年産の水稻の9月25日現在のふるい目幅1.70mmベースの予想収穫量（主食用）は747.7万トンで、前年産に比べ68.5万トン増加と見込まれる。

【水稻の作付面積(主食用)、10a当たり収量及び収穫量の推移(全国)】



資料：農林水産省大臣官房統計部「作物統計調査 令和7年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量」

- 注：1 作付面積(主食用)とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり予想収量及び予想収穫量(主食用(生産者ふるい上米))は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり予想収量については、都道府県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
- 4 10a当たり予想収量及び予想収穫量(主食用(生産者ふるい下米含む))は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

令和 7 年産の水田における作付状況（令和 7 年 9 月15日時点）

- 令和 7 年産の主食用米の作付面積は、前年実績（125.9万ha）から**10.8万ha**（6月末時点の作付意向から**0.4万ha**）増加し、**136.7万ha**となった。
- 戦略作物等の作付面積は、いずれの品目も減少するとともに、畑地化面積については、0.8万haとなった。

【主食用米、備蓄米及び戦略作物の作付状況】

年 産	主食用米	備蓄米	戦略作物等										(万ha)
			加工用米	新規 需要米	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲発酵粗 飼料用稲)	麦	大 豆	飼料作物 そば なたね	戦略 作物等 合計面積	
H30年産	138.6	2.2	5.1	13.1	0.4	0.5	8.0	4.3	9.7	8.8	10.2	47.0	
R元年産	137.9	3.3	4.7	12.4	0.4	0.5	7.3	4.2	9.7	8.6	10.2	45.6	
R2年産	136.6	3.7	4.5	12.6	0.6	0.6	7.1	4.3	9.8	8.5	10.2	45.6	
R3年産	130.3	3.6	4.8	17.4	0.7	0.8	11.6	4.4	10.2	8.5	10.2	51.2	
R4年産	125.1	3.6	5.0	20.6	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	9.9	54.9	
R5年産	124.2	3.5	4.9	20.4	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	8.5	53.1	
R6年産	125.9	3.0	5.0	17.3	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4	7.4	48.3	
R7年産	136.7	—	4.4	10.8	0.9	0.4	4.6	4.9	9.5	7.5	6.7	38.8	
対前年差	10.8	▲ 3.0	▲ 0.6	▲ 6.5	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 5.3	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 1.0	▲ 0.8	▲ 9.5	
畑地化面積	—	—	—	—	—	—	—	—	0.1	0.1	0.3	※ (0.8) 0.5	

注 1：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の R 6 年産以前の実績は、取組計画の認定面積。R 7 年産は取組計画の届出面積。
2：麦、大豆、飼料作物、そば及びなたねは、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
3：備蓄米は、R 7 年産米の入札を当面中止。R 6 年産以前の実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。
4：R 7 年産畑地化面積は、令和 7 年度に畑地化促進事業で採択された面積。また、戦略作物等合計面積欄の 0.8 万 ha については、麦、大豆、飼料作物、そば、なたねのほか、高収益作物等を加えた面積。
5：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

政府備蓄米の在庫状況について

売渡し前の在庫状況（7年3月末）

96万ト

令和7年6月末在庫91万トに向けて、令和2年産を配合飼料向けに6月末までに5万トを販売する予定であったが、販売を凍結



2年産
7.5万ト放出

3年産
9万ト放出

4年産
19万ト放出

5年産
17万ト放出
(1回目 4万ト、2回目 3万ト、3回目 10万ト)

6年産
14万ト放出
(1回目 10万ト、2回目 4万ト)

現在の枠が全て販売された後の在庫見込み

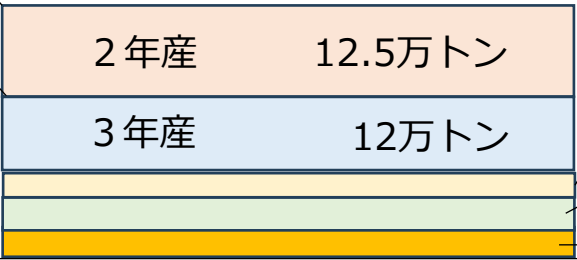
29.5万ト

- ・入札による政府備蓄米販売分31万ト
 - ・随意契約による政府備蓄米販売分28万ト(契約数量ベース)
 - ・加工原材料向け政府備蓄米販売分7.5万ト
- を売り渡すと在庫数量は29.5万ト程度となる見通し。

100

50

0



在庫量：29.5万ト

4年産 1万ト
5年産 2万ト
6年産 2万ト

- 加工原材料向け売渡し
- 随意契約による売渡し
- 買戻し条件付の売渡し

主食用米の需要量の推移

(万トン (玄米))

